

「JUDO for ALL」実現に向けた組織基盤強化事業

公益財団法人全日本柔道連盟

事業実施の背景・課題、目標

TOKYO2020 レガシー
未来に引き継ぐもの



日本視覚障害者柔道連盟
JAPAN BLIND JUDO FEDERATION

日本ろう者柔道協会
知的障害の支援団体・NPOなど

負担↓
運営安定化

パラ柔道の支援と連携

COVID-19の影響
十分な関係性は築けなかった



- 障害に関する理解が不十分
 - 障害に関する知識のある指導者の不足
 - 受け入れられる環境が少ない
- 事例 | 口コミで受け入れ先を知り
往復2時間以上かけて通っている

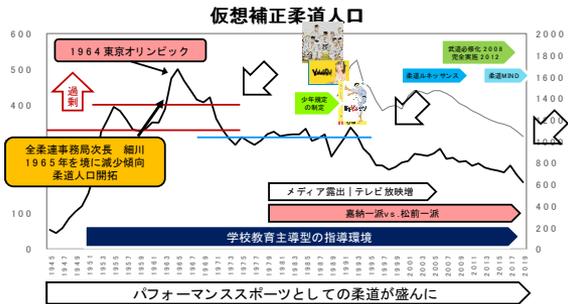


共通の問題を解決する
共有できる業務の連携

公益財団法人 全日本柔道連盟

柔道離れ 登録者数の激減

支援する側の全柔連の基盤が危うい



長期育成指針



全柔連のグランドデザイン

- 早期専門化
- 勝利至上主義
- マイノリティの
ディスアビリティ
合理的配慮と対話
- 安全性 | 重大事故
- 性差や発育発達
の遅速

1. 柔道界の問題と課題の認知
→ 長期育成指針の普及
→ 指針推進委員の設置
2. 指導者の養成 | 質と量 ↑
→ 指導者養成システムの改革
→ 大学での認定制度
3. 環境の整備
→ 環境の見える化
→ 道場と指導者のマッチング
☆ キーパーソン・中枢人材の育成と
全国ネットワークの構築

本事業における具体的な取組内容

事業内容

1	「長期育成指針」の普及	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中枢人材の育成および都道府県柔道連盟での講習会実施 ・ 指針推進委員の設置および外部推進人材の活用
2	「長期育成指針」普及ツールの作成ならびに発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普及コンセプト、動画、パンフレット、キービジュアル、ポスター、LPの発信
3	指導者養成システムのアップデート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者養成指針の策定および公認柔道指導者資格制度規程の改定 ・ カリキュラムの改訂 ・ 全学連との連携と指導者養成認定校制度の導入（C指導者資格→B指導者資格）
4	「道場マッチングシステム」の構築に向けた検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「道場を探す」の改修（登録団体のHP自動生成）に向けた調査及び要件定義
5	「JUDO for ALL」推進のための組織基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全柔連、日本視覚障害者柔道連盟、日本ろう者柔道協会の連絡会議の定期開催 ・ 各団体中長期計画の策定ならびに改定

スケジュール

	2023			2024				2025				
	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	
1	都道府県連盟等 執行部への説明		推進委員設置・中枢人材育成 講習会実施（全国行脚）				継続的な中枢人材育成と講習会の実施 指針の認知度・実践度の調査・検証					
2	長期育成指針 普及ツール制作・発信			指導者養成指針普及ツール制作・発信				追加普及ツール制作・発信				
3	指導者養成指針作成 カリキュラムの改訂／規定の改正			指導者養成指針策定／BCテキストの作成 新資格制度施行／認定校制度の実施				Aテキストの作成 認定校制度の拡充（B資格導入）				
4	クラブのニーズ調査	要件 定義	システム設計	テスト	実装	検証および機能改善						
5	各団体との 連携強化	パラ柔道 連携会議発足	中長期計画の策定 オリパラ連携プロモ	デフリンピック連携プロモ				指導者・環境 状況調査				

令和5年度の取組内容および進捗状況

1	「長期育成指針」の普及	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県柔道連盟に対する説明を通じ、講習会実施および指針推進委員設置の調整を行った。 様々な知見を有する囑託職員2名、副業人材2名を採用し、事業推進体制を構築した。
2	「長期育成指針」普及ツールの作成ならびに発信	<ul style="list-style-type: none"> 普及コンセプト「みんなの柔道」を開発し、動画、ポスター等を制作し、LPに集約した。 パンフレット及びポスターは広報誌に同封し、約8000の登録団体に送付した。 各種ツールのSNS関連投稿には累計で100万回を超えるインプレッションがあった。 グランドスラム東京2023の会場で、ブース・イベントを実施し、約1万人に周知した。
3	指導者養成システムのアップデート	<ul style="list-style-type: none"> 指導者養成指針作成のため、エビデンスを整理した。2024年4月策定予定。 長期育成指針および指導者養成指針に沿って、カリキュラムの改訂を行なった。 全学連と連携し、指導者養成認定校制度の導入、認定校選定に向けた調整を行った。 公認柔道指導者資格制度規程の改定を行い、2024年度からの施行に至った。
4	「道場マッチングシステム」の構築に向けた検討	<ul style="list-style-type: none"> 約700団体を対象に「道場を探す」の現状把握のためのアンケートを行った。 現状把握の分析結果をもとに、2023年度中に要件定義が完了予定。
5	「JUDO for ALL」推進のための組織基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> 視柔連、ろう者柔協と個別協議を重ね、パラ柔道連携会議発足に向けた調整を行った。 全日本ID（知的障がい柔道）柔道大会には史上最多となる54名の出場があった。 マーケティング連携を行い、日本視覚障害者柔道連盟の年間協賛金収入が17%増加した。



みんなの柔道
結びつつける。

様々な価値観が集まり、意見と意見が衝突する中で、お互いを尊重し、協力し合うことで、柔道という文化が育まれます。柔道は、心身の鍛錬だけでなく、コミュニケーションの場でもあります。柔道を通じて、お互いを尊重し、協力し合うことで、柔道という文化が育まれます。柔道は、心身の鍛錬だけでなく、コミュニケーションの場でもあります。

みんなの個性を、もっと愛してゆかために。

公益財団法人 全日本柔道連盟




「長期育成指針」と「みんなの柔道」

石井孝法 井上康生
SPECIAL TALK SESSION
「日本の柔道界に今、必要なこと」

「長期育成指針」について
「みんなの柔道 結びつつける。」

「長期育成指針」への思い

公益財団法人 全日本柔道連盟

「長期育成指針」認知度・実践率の向上

目標	柔道の目的・意義を理解した実践者・指導者を増加させ、普及基盤を構築するため、2024年度以降に登録団体の責任者を対象に指針の認知度及び実践率の調査を行う。 2024年度目標⇒50% / 2025年度目標⇒80%
達成状況	今年度事業においては、各都道府県連盟に対する説明に加え、普及コンセプト・ツールの制作して広く発信し、各種SNSで 100万回 を超えるインプレッションを得るなど、「長期育成指針」の普及に努めた。

登録会員数ならびに指導者登録数の増加

目標	「長期育成指針」の普及、指導者の量的質的向上、「道場マッチングシステム」の導入による活動場所の可視化により、登録会員数（指導者数含む）の増加トレンド（ 年間2% ≒約2,400人）を創出する。
達成状況	今年度の登録会員数は前年度比 1%増 となる見込み。（人口補正で年3%減） あらゆる層に対して様々な柔道の価値を提供する体制を整え、2024年度以降の目標達成を目指す。

財政基盤の強化

目標	登録会員増による登録料収入の増加ならびに「JUDO for ALL」推進と連携した新規事業共創パートナーセールスによる収支改善を図り、25年度の登録料、協賛金の収入合計を 22年度比で10%増加 させる。
達成状況	全日本柔道連盟の2023年度協賛金収入は前年度比で 16%増加 し、連盟間のマーケティング活動の連携を行うことで、日本視覚障害者柔道連盟の新規協賛契約締結に繋がり、同連盟の協賛金収入が前年比 17%増加 した。

令和6年度の実施予定

日本視覚障害者柔道連盟、日本ろう者柔道協会ならびに全日本柔道連盟（知的障がい柔道振興部会含む）の持続的な成長基盤を確立し、「JUDO for ALL」の合言葉のもとに年齢、性別、障害の有無の分け隔てなく、誰もが柔道に親しめる環境づくりを推進するため、主に3つの事業を実施する。

1	「長期育成指針」の普及および指導者養成システムの改革	<ul style="list-style-type: none">・ 指針推進委員の設置（10地区→都道府県）、全国ネットワークの構築。・ 指針推進委員および中枢人材の育成。・ 指導者養成指針普及ツール作成（一般・アントラージュ向け）。・ 指導者養成認定校制度の拡充（C指導員資格→B指導員資格）。・ 障害や識別に関する知識のエビデンスを整理し、全テキストの改訂。・ S指導員資格の設置検討。
2	パラ柔道統括団体との連携促進	<ul style="list-style-type: none">・ 視覚・聴覚・知的障がい柔道統括団体の代表者で組織する「パラ柔道連絡会議」の定期開催。・ 各団体の中長期経営計画策定ならびに改定。・ パリ2024オリパラ連携プロモーションの実施。・ 2025年のデフリンピック準備サポート。・ 全日本ID柔道大会の拡充。
3	マッチングシステムの構築	<ul style="list-style-type: none">・ 「道場を探す」を改修し、連盟HPのドメイン配下に登録団体（道場・クラブ）のHPを自動生成するシステムを構築する。★パラ柔道の受け入れおよび取組を可視化し、障がい者の競技参加を促進。★指導者募集情報を掲載し、競技経験者の活動継続、再開を促進。★生成AI技術を活用した「TENDOC」を導入し、視覚障害者のアクセシビリティに配慮。★ボランティア運営が多い道場・クラブ運営者を情報発信面でサポート。